

岩日タイムズ

発行者
岩瀬日本大学
高等学校
(茨城県)
ソーシャル
メディア部

命の永遠に語り継ぐ

特別展「ミイラ」が開幕

遙かなる時を超えて

特別展「ミイラ」の「永遠の命」を求めて（主催・国立科学博物館、TBS、日本経済新聞社）が、東京・上野の国立科学博物館で開催されている。2月24日まで。

11月1日に、特別展「ミイラ」の報道内覧会に参加した。私たち高校生は、報道陣に交じって一般公開の前日に見学が



江戸時代の本草学者のミイラ（日本）



左脇腹に穴のあるミイラ

展示の最後には、特設ショップがあり、ミイラにちなみながら、わいい腕まくらや、プリントクッキー、人気のキャラとコラ

ぶことができた。報告内覧会では、私たち高校生は、報道陣に交じって一般公開の前日に見学が

できるという特別な機会を得ることができた。世界中から43体ものミイラが集められ、ケースに展示されている。報道内覧会では、内臓を取り出すために、左脇腹に穴の空いた男性のミイラから作成工程を学んだり、監修者への取材を通して理解を深めることができた。また、俳優の大沢たかおさんによる音声ガイド（有料）を使って充実した解説を聴き、クイズに答えることで、ミイラを楽しみながら学ぶことができた。

特別展「ミイラ」の魅力に迫る！

特別展「ミイラ」の監修者である、国立科学博物館人類研究部人類研究グループ研究主幹の坂上和弘さんに、ミイラの魅力について取材した。

最も心を動かされた部分はどこか、との質問に、「衝撃が走り、言葉にならないというのが正直なところ

報道内覧会では、スペシャルサポーターに就任したタレント

たけしさん ミイラを語る

たけしさんは、特別展「ミイラ」について、「今はネットで検索することもできるんだらうけど、やっぱり実物は写真とはちよっと違うと思うので、できるだけ



たけしさんは、特別展「ミイラ」について、「今はネットで検索することもできるんだらうけど、やっぱり実物は写真とはちよっと違うと思うので、できるだけ

たけしさんは他に、特に子どもの知識欲の大切さについて言及し、かつてはミイラが焼き払われるなど、保存が重視されていなかった時代のことや、先代の首里城での衝撃的な火災などから、文化財を保護することの意義やその大切さを語った。（鈴木）



笑顔で取材に答えてくれた坂上さん

け多くの人に見てもらいたい」と話し、本草学者のミイラに関して「ミイラを探求してミイラになったとか震えましたね」と、独特のユーモアを交えたトークで報道陣を盛り上げた。

国内最大級！世界各地からミイラが集結！

「ミイラ」といえば「エジプト」というイメージがあるが、発見された地域はさまざま。気候などからミイラの保存には適していないものの、この日本でも20体前後もの報告があり、私たちの想像以上にミイラが多く存在していることがわかった。江戸時代の兄弟ミイラや、ひときわ目を引く即身仏の「弘智法印 宥貞」など、とても迫力があつた。また、人だけでなくネコ、ハヤブサ、トキなどの動物もミイラとなって展示されていた。ネコのミイラ包みの口と耳の部分はリネンで作られ、付け足されていた。中がどのようにになっているのか、興味深い。

①「南北アメリカのミイラ」



チャチャポヤのミイラ

③「ヨーロッパのミイラ」



ウェーリングゲメン



カナリア諸島のミイラ

④「オセアニアと東アジアのミイラ」



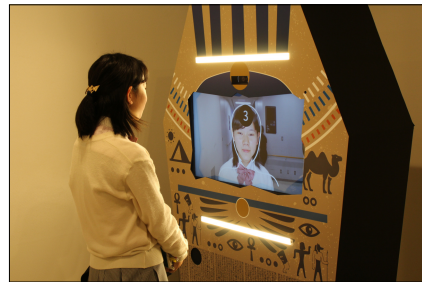
弘智法印 宥貞

②「古代エジプトのミイラ」



美しいペンジュの棺

内覧会を見学していた宮田亮平文化庁長官に、展示を見た感想を取材した。
「生と死について改めて考えさせられた。自分が現代を生きてるということを実感できて、それが奇跡であると感じさせられる」と語ってくれた。(島村)



実際に体験してみた

休憩スペース付近にある、会場限定の「ミイラマスクチェンジャー」。設置されている液晶パネルに向かって顔の位置を合わせると、ツタンカーメンなどと合成させることができる。いざ挑戦してみると、少し恥ずかし

あなただけのミイラマスクが作れる

ミイラのフィギュアも好評

出口付近にはカプセルトイがあり、全4種類のミイラや副葬品を模したフィギュアが入っている。有名な海洋堂のプロデュースで、リネンの変色した部分などとてもリアルで細かいところまで精巧に作り込まれている。



何が出るかはお楽しみ

と、少し恥ずかしかったが、とても楽しかった。小さい子どもも喜んで体験できると思うので、ぜひ思い出に写真を撮ってほしい。

私もおもこの貴重な体験を、高校の世界史の授業だけでなく、日々の生活の中でも活かしていきたいと思えます。(笠倉)

休スペース付近にある、会場限定の「ミイラマスクチェンジャー」。設置されている液晶パネルに向かって顔の位置を合わせると、ツタンカーメンなどと合成させることができる。いざ挑戦してみると、少し恥ずかし

川の地にたどり着いた。安全に保存するために、

また、木造阿弥陀如来坐像などは県文化財に指定されており、こうした約800年前の文化財を国の文化財に申請しよう



即身仏のある妙法寺

地域で保存されているミイラ

私たちが通う岩瀬日大高校の付近のお寺にも、ミイラが祀られているという話を聞き、関係者に話を聞くことができた。そのミイラ(即身仏)は約300年前から茨城県桜川市にある、妙法寺に

そこで目の当たりにしたのは、生活に苦しむ住民たちの姿だった。そのような人々を救いたいという一心で修行を開始、1686年2月に即身成仏を果たしたという。

桜川市では毎年1月の「文化財防火デー」に大規模な防火訓練を行っている。なお、妙法寺に事前に連絡をすれば見学することも可能だ。

編集後記

今回の特別展「ミイラ」の報道内覧会では、実際に展示されているミイラを見学するとともに、文化庁長官の宮田亮平さんにインタビュースせて頂きました。「ミイラ」という言葉は、日本人なら誰も一度は聞いたことがあると思いますが、ミイラに込められた本当の意味は、この取材に参加するまで知りませんでした。展示されたミイラからは、まるで当時の様子が感じられるような気がします。また、その土地の文化や慣習、死生観を学ぶことができました。日本でこれだけのミイラが見られるのは貴重な体験です。より多くの人に見て、触れて、聞いて、肌で感じてほしいです。私もこの貴重な体験を、高校の世界史の授業だけでなく、日々の生活の中でも活かしていきたいと思えます。(笠倉)